

新むつ小川原株式会社 第19回経営諮問会議 議 事 次 第

日 時： 2019年4月22日（月） 12時～13時30分
場 所： 経団連会館5階 パールルーム

1. 開 会
2. 出席者紹介
3. 中西座長挨拶
4. 経営概況報告
 - (1) 2018年度決算見込み
 - (2) 2019年度事業計画
 - (3) 2018年度誘致活動等実績
 - (4) 2019年度誘致活動計画
 - (5) むつ小川原開発地区におけるIoT等を活用した次世代型農業の展開への取組
5. 意見交換
6. 閉 会

(出席委員等名簿)

座 長	中 西 宏 明	(日本経済団体連合会会長)
座長代理	秋 池 玲 子	(ホストコンサルティンググループシニア・パートナー&マネージング・ディレクター)
委 員	遠 藤 哲 哉	(青森公立大学教授)
	杉 本 康 雄	(青森経済同友会代表幹事)
	戸 田 衛	(六ヶ所村長)
<欠>	浜 谷 哲	(青森県経営者協会会長)
	三 村 申 吾	(青森県知事)
	森 昌 文	(国土交通事務次官)
	若 井 敬一郎	(青森県商工会議所連合会会長)
	渡 辺 一	(株)日本政策投資銀行代表取締役社長)

(新むつ小川原株式会社)

代表取締役会長	濱 厚
代表取締役社長	薄 井 充 裕
取締役常務執行役員	三 上 雄 二
取締役常務執行役員	高 橋 淳 悦
取締役常務執行役員	高 橋 聡
監査役	川 俣 尚 高

2019年4月22日

第19回経営諮問会議 報告

新むつ小川原株式会社
代表取締役社長 薄井充裕

第19回経営諮問会議 報告

新むつ小川原株式会社第19回経営諮問会議が4月22日(月)経団連会館で開催されました。その概要につきましては以下のとおりです。

報告事項

1. 2018年度決算見込み
2. 2019年度事業計画
3. 2018年度誘致活動実績
4. 2019年度誘致活動計画
5. むつ小川原開発地区におけるIoT等を活用した次世代型農業の展開への取組

これに対しまして、各委員から以下のとおり意見・助言を受けました。

1. 本日はお忙しいところお集りいただき感謝申し上げます。国、青森県、六ヶ所村、青森県経済界をはじめとするご関係の皆様には、日頃から、新むつ小川原(株)への多大なご支援、ご協力をいただいていることに御礼申し上げたい。日本の電力、エネルギー、またその地域の特性にあった産業振興をどう進めていくかについて、新たなステージが到来している。経団連ではSociety 5.0を掲げているが、AI、IoT等の進化・拡充によるデジタル化と、経済のグローバル化が近年のトレンドである。そのような状況において、六ヶ所村にも新たなビジネスチャンスが広がるのではないかと感じている。新むつ小川原(株)も、前者を意識した事業の発展を考えていく必要があるだろう。また、Society5.0において注目すべきはスマート農業だ。これは「市場と直結した農業にしていくためには、どうしたらよいか」が最大のポイントである。高いコストをかけずに実現できる社会構造になっていくことが予想されるし、また、そうでなければ日本は世界に負けてしまうだろう。新むつ小川原(株)の経営は、一時はご心配いただかなくてはならない状況にあったと承知しているが、今は安定している。今後はさらに発展させる時期にきていると思う。
2. 新むつ小川原(株)が安定的な経営を維持していることについては、薄井社長をはじめ経営陣の皆様方のご尽力と、委員の皆様方の支援、協力の賜であると深く感謝申し上げます。県としてもむつ小川原開発の基本方向である、環境、エネルギー及び科学技術の分野における研究開発機能の展開と成長産業等の立地展開を図るため、様々な取組を進めているところである。今年度は昨年9月に県と連携協力協定を締結した、量子科学技術研究開発機構が保有しているリチウム回収技術を活用したリチウム関連産業の創出について検討することとしている。現段階では研究レベルではあるが、将来的には海水から安価なりチウムを大量に生産することができる革新的な技術になると認識している。成長産業等の立地展開としては、引き続き、むつ小川原地域に集積している再生可能エネルギーを活用した水素関連産業の創出について検討するほか、県としても是非ともこのむつ小川原開発地域において、新たな産業の創出に繋がっていきたいと考えているところ。委員の皆様におかれては、今後とも、むつ小川原開発推進のための様々な取組に対して、引き続き支援・協力を賜るようお願い申し上げます。新むつ小川原(株)においては、国、県、六ヶ所村及び経済団体との密接な連携と協調の下、更なる分譲の促進ということで、地域の振興に尽力するよう、よろしく願います。また、先程の概況説明において、名久井農業高校をお褒めいただきありがとうございます。名久井農業高校は、工業分野と農業分野を統合した結果、お互

いに持っているものが噛み合い、ここから世界的な評価を頂くような事例や、京都大学との連携事業などが生まれ、とても興味深いと感じている。このように、農業と工業のどちらかだけでなく、2つを合わせるベストミックスから生まれる相乗効果は面白いと考えている。

3. ただ今ご報告いただいた経営概況では、黒字決算を計上しており、引き続き安定した経営がなされていることは、薄井社長をはじめ、役員、社員の皆様のご尽力によるものと、深く敬意を表す。昨年度は、経済同友会並びに青森県商工会議所連合会の皆様に、ご多忙中にもかかわらず本村のむつ小川原開発地区をご視察いただき、深く感謝している。

また、各団体、各企業関係者にもご視察頂いており、改めてお礼申し上げますとともに、今後も各種視察会を通して、開発地区の企業立地環境の優位性などの認識が広がり、新たな研究開発機関等の立地へとつながるよう期待している。さて、当開発地区においては、原子燃料サイクル事業の要である再処理工場が2021年度上期へ、またMOX燃料工場に関しては2022年度上期へ、それぞれ竣工時期を延期している。

東日本大震災以降、原子力を取り巻く環境は一変しているが、エネルギーの必要性・重要性は変わるものではなく、国に対しては、資源の有効利用、高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度低減等の観点から再処理工場を推進するとともに、エネルギーミックスの確立に向けて原子力施設立地地域が誇りを持って国策に協力できるよう、原子力政策の理解と信頼の確保に努めて参りたいと考えている。本村の動きとしては、昨年度、村内の再生可能エネルギーを活用し観光・産業等の振興を図るため、水素導入可能性調査を実施し、今年度は実証へ向けての設計業務へ着手することとしている。また、本村の定住・移住促進を図るため、六ヶ所村まち・ひと・しごと創生総合戦略を掲げ「選択と集中アクションプラン」を昨年度決定し、子育て支援等の施策を展開している。昨年オープンした村の特産品販売施設「六旬館」を拠点とする観光の活性化は、移住・定住につながる関係人口の増加への重要な要素なので、充実した運営に取り組んで参りたい。

先ほども薄井社長が触れていたが、ホテル誘致については、立地・運営に係る支援施策を拡充したほか、誘致活動に努力している。今後も日本政策投資銀行や新むつ小川原(株)から委員として参加いただいている「六ヶ所村宿泊施設誘致研究会」などで具体的な検討を行うこととしている。村は今後も、新むつ小川原開発基本計画の推進に向けて、インフラ整備やまちづくり施策等に鋭意取り組んで参りたいと考えているので、引き続き、委員の皆様方をはじめ六者協など関係各位のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

4. 13期連続黒字は素晴らしいの一言に尽きる。経営陣の皆さんに感謝を申し上げたい。私からは1点に絞り申し上げます。新聞をはじめ各所で洋上風力について話題にのぼる機会が多い。

洋上風力は、太陽光と並び再生可能エネルギーの本命だと言われ、昨年末に開発を促す法律が成立している。それを受けて、私ども青森経済同友会と青森商工会議所が連名で、本年3月7日に国の洋上風力促進区域に指定されるよう、青森県と青森市に対して、国に県から風況などの情報提供してほしい旨の要望書を提出した。内容は以下の2点で、1点目は洋上風力を事業化していただきたいということ、2点目は洋上風力発電事業のための拠点港の整備ならびに誘致を進めてほしいということだ。

今回は青森県と青森市に対しての提言だが、六ヶ所村のむつ小川原港も拠点港として活用可能だという気がしている。それは港の広さや波の高さもあるが、1番は青森港よりも後背地が広大で、海外の拠点港も視察してみたいと思うが、拠点港整備において、関連するメンテナンス工場や部品工場にはかなりの面積が必要となることから、洋上風力の拠点港として見た場合に、再度、むつ小川原港の可能性を調べてみる必要はあるのではないのかと思う。可能であれば青森港と連携した拠点港作りにならないか、そのために研究調査をしていただきたいというのが、私ども経済同友会からの意見要望である。洋上風力の拠点港による青森県の経済波及効果は期待できるので、是非検討していただきたい。

5. 堅実な経営により13期連続で黒字達成とのこと、経営陣のご努力に敬意を表す。また、関係機関のご協力ご支援にも重ねて敬意を表したい。国土交通省が当会議に参加しているのは、

まず、国土庁として当地区の開発に関わってきたこと、次に、当地区の開発における政府全体の様々な地方政策の窓口であることによるものである。現在は、下北半島縦貫道路や上北自動車道など、県内の交通ネットワークを整備することによりアクセス面の改善をサポートさせていただいている。今年3月には上北天間林道路が開通し、むつ小川原地域周辺の産業・観光等の利便性が向上したと認識している。

平成28年に台風等で被災したむつ小川原港の復旧工事は、来月完了予定と聞いているので、引き続きしっかり対応させていただきたいと思う。インフラ関係の仕事は、国だけではなく県や地元自治体の皆様方との連携で着々と進捗しているものと理解している。これからも引き続きご支援をいただければ幸いである。

その他全体について、政府としては、ITER、国際熱核融合実験炉計画に関連する先進的研究開発に関して、日欧協力の下、むつ小川原開発地区で行っているところだが、2020年4月以降の実施内容について検討が進められていると聞いている。国土交通省としては、関係省庁、関係機関と協力しながら、むつ小川原地域の発展に引き続き参加、支援させていただければと考えている。

6. 13期連続黒字ということで、一定の利益を確保していただき関係者の皆様のご努力も含め大変感謝している。むつ小川原地区については北海道東北開発公庫時代から深く関与しているが、現状は国内有数の再生可能エネルギーの集積地であると認識している。

青森県庁のご尽力により、国内最先端の量子科学研究所の拠点施設も設立されて、水素事業やリチウム回収事業など、先進的なプロジェクトによるイノベーションを生み出す土地柄だと認識している。このような高いポテンシャルを発揮するためには外部へのPRは非常に重要であり、視察の積極的な受け入れや、観光を絡めたDMOなどの工夫ができれば、より当地区への理解が深まるのではないかと考えている。

国内の宿泊客数が全体で見ると減少しているにもかかわらず、青森県のインバウンドの宿泊客の伸び率は全国一位であることから、観光のポテンシャルがある地域である。縄文遺跡群のユネスコ世界遺産認定の動きがあるが、インバウンドを含めた観光産業は、買い物や食事を楽しむことから体験することにシフトしている。エネルギーと縄文遺跡を結びつける回遊ルートができれば観光産業をより発展させられるのではないかと考えている。

エネルギー分野では、自動車メーカーや石油会社、ガス会社等を当行が結びつけ、水素ステーションの会社（JHyM）を立ち上げた。また、先ほど話題に上った風力発電、特に洋上風力は海外で先進事例があるため、今は経験を蓄積している。観光分野では、DMOなどの組成のお手伝いができると思うし、一昨年に地域の金融機関と一緒に「東北観光金融ネットワーク」を作り、青森だけでなく、東北全体の観光を促進するような運動をしている。こうした取り組みを通じて、関係各所と連携しながら産業立地や交流人口の増加をサポートしていきたいと考えている。

7. 三村知事と共に、北海道・北東北3県の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指し邁進しており、本日、薄井社長ほか皆様にピンバッジを付けていただいているが、国内予選を勝ち取るところまで来られたのも皆様のご協力のお陰だと思っている。2020年東京オリンピックにおいて、使用済小型家電からメダルを制作する取組が素晴らしいと思う。リユースやリサイクルは、日本人が非常に優れており得意とするもので、現在、六ヶ所村では海水からリチウム製造する研究開発をしている。天然に存在するリチウムは、 ${}^6\text{Li}$ および ${}^7\text{Li}$ の2つの同位体から成り、将来的に ${}^6\text{Li}$ は、ITERの製造過程において大量に必要なことになるし、近年はリチウム電池が大変な脚光を浴びている。リチウム電池の再利用等リサイクルやリユースに関する技術の進化を期待している。また、当地区は港があり、後背地があり、電力的にも余裕があり、立地条件が揃っていると思うし、将来的にリチウムに関するリサイクル工場が六ヶ所に立地できると良いと思う。カダラッシュ（サン・ポール・レ・デュランス）でITERを建設中で、2021年日本でJT-60SAが動き出す予定であるが、欧米の方々がこれに大変興味を持っていると聞いている。JT-60SAのコントロール技術等を習得しに行きたいとの声があるし、その次に来るのはリチウム研究だと思うので、是非皆様の考えの中に入れていただければ嬉しい。

8. 私は、2016年に日本で初めて地域経営学会を創設した。当会は、地域社会における課題を解決し、経営における環境をより良いものとする観点から実践的な研究をしている。

先の報告より、御社の経営は順調に推移していると感じており、社長をはじめ皆様の努力の賜物であると思う。さて、私は日頃から高等教育に携わっていることもあり、特に人づくりの重要性を感じている。当地区は、海外とのネットワークがあること、エネルギー関係では世界を代表する集積地になっていることから、大いにポテンシャルがあると思うので、今後はアジアのリーダーとして、アジアにおける人材育成を積極的に進めては如何か。いまや地方創生の時代で、力を結集し、世界と連携しながら高等教育に注力いただき、ぜひ青森から世界に発信してほしい。

私は、人材育成と並行して、グローバルなビジネス展開についてのポテンシャルにも期待している。日本人は英語が不得手と言われるが、英語が堪能なフィリピンのような国と連携するなど多言語のビジネス展開や起業は可能だと思う。その実現には、県内の大学と連携するなど横の繋がりを大切にしながら、新しいビジネスの立ち上げや起業しやすい環境整備が必要なことから、その観点に力を入れてみては如何か。最近、私が関わっているプロジェクトでは、MICE（マイス）の誘致に力を入れている。我々は、小規模な MICE をコミュニティ MICE と呼んでおり、地域に根差した MICE の実施回数を重ねていくことが大切だと感じている。そして、世界とのネットワークが生まれ、それを活用した人材育成、そして観光、交流人口、定住人口の促進に繋がれば嬉しい限りである。

9. 皆様から賜ったお話をまずは整理すると、13期連続黒字についてポジティブな評価をされている。そして当地が科学技術の集積地であり、どのようにその可能性を広げていくかについて4つの方向性を頂戴した。1つめは、エネルギーそのものについてで、いままでは原子力中心で来ていたが、水素や風力発電の適地でもあり、それらの活用にあふさわしい港があり、その観点から雇用創出や経済効果が見込めるのではないかとのお話があった。

2つめは、リチウム製造技術に関してであり、3つめは、スマート農業で、これは大変優れた取組だと感じた。

最後は観光についてで、世界遺産の縄文、核融合の世界もあり、エネルギーツーリズムも可能との事であり、さらに体験することを組み込んでみてはどうかとのご提案を頂戴したが、これは皆様に共通している認識かと思うし、コミュニティ MICE というお話もあった。皆様からのご意見は、総じて「新むつ小川原を拠点にした青森の広がり」だと認識しており、以下は私の感想である。何かを誘致しようという場所は日本全国にたくさんあるが、当地区が優れているのは、エネルギーという極めて明快なメッセージを発信しやすい点だろう。まず、原子力から水素や風力などエネルギーの種類を広げていくことがあげられる。その際、再生可能エネルギーの変動部分をどう取り扱うのか、青森の中で安定化させて利用者・需要地に送るのであれば、蓄電池も手段の一つであろう。本日のリチウムの話題に関係してくる項目で、このように上流から下流に広がりを見込める点が素晴らしいと思う。

次に、地域という点では、優れた科学技術の集積により、世界的なものを呼び込めるところが素晴らしいと思うし、新むつ小川原(株)の役回りは、地元と県外や国際的なものをつなぐ役割が非常に大きなところだと感じる。最後に名久井農業高校については、工業と農業を統合させたことによって非常に良い効果が出たとお話があった。既存システムを組換え直した事例の優れた点を日本全国へ発信している点が素晴らしく、青森ならではの点だと思うし、次の令和時代に向けて、新しい切り口を作っていくと良いと思う。1つ質問がある。分譲地が増えてきて大変素晴らしいと思うが、購入者が将来どこかへ転売する事により当地の環境が変わっていくことがないか、について教えていただきたい。

10. 薄井社長(回答)

私からは先のご質問についてのみ回答したい。私たちは、販売時と異なる用途となることが極力ないようにご利用いただきたいと考えている。販売先の多くは民間企業であり、必ずしも公権力による拘束力はないが、販売後の土地利用について、各企業の都合により、転売の申し入れ

があった場合には、状況に応じて、当社で対応するよう努めている。また、その他ご指摘いただいた以下の2点については肝に銘じたいと思う。1つめは、インフラ整備の観点による、むつ小川原港の利活用についてである。本件は以前からの課題であり、県・村とも何度も議論を重ね、ポテンシャルが発揮できるよう様々な検討・取組をしている。今回ご指摘いただいたことを機に、改めて県内3つの拠点港の1つとして今後の展開について関係各位とともに検討をすすめたい。

2つめは高等教育、人材育成についてである。当社自身を含めて十分にできているとは言い難いが、少し長い目でみていただき、着実に1歩ずつ進めて参りたいと考えている。

11. 中西座長(閉会挨拶)

有り難うございました。

本日の議論をお聞きし、当地域には様々な可能性があると感じ、心強く思う。是非この取組が加速するよう経団連としても支援・協力したい。当地区には何度か行ったことがあるが、改めて8月に伺う予定である。知事のお時間も頂戴できると聞いており、大変楽しみにしている。気候が良い季節に伺うと「こんなに素晴らしいところは他にない」と思うほど良いところなので、皆様にも足を運んでもらいたい。それでは、これをもって、本日の経営諮問会議を終了する。委員の皆様には、ご多忙のところ長時間にわたり、深く感謝申し上げます。

以上